

ケアセンターけやき 堀田 朱音 （言語聴覚士/訪問看護ステーション）

功 績 板橋区で若い年代の失語症の方々の情報交換、社会参加の促進を目的に、板橋区、板橋区在勤の言語聴覚士や失語症会話パートナーと協力して、失語症で悩む、若い人の会を立ち上げ支援の初期運営メンバーとして関わり、地域に住む失語症の方々の社会参加とより良い生活に貢献した功績。

推 薦 者 栗原 春季 （職種：主任/所属部署：ケアセンターけやき）

推 薦 理 由 スイスイの会に立上げからボランティアとして関わり、失語症のご利用者の情報交換の場、自らが「輝ける場所」を提供することに繋がりました。また自分が担当するご利用者に参加を提案、参加して頂くことで、失語症のご利用者に「輝きの一日」を提供できたことを評価し理事長賞に推薦します。

内 容

板橋区では、若い年代の失語症の方々が活動できる場が少ないことから、若い年代の失語症の方々のコミュニケーションや交流の機会作りをしていきたいという計画がありました。そこで、板橋区、板橋区在勤の言語聴覚士、失語症会話パートナーが協力し、失語症当事者の方が主体となった友の会を開催することになり、堀田は「失語症のご利用者の社会復帰への情報交換の場に貢献したい。」との思いからボランティアとして初期段階から関わってきました。

会の名称は参加者の話し合いにより、「失語症でも、すいすい何処でもいけるように」という思いから、「スイスイの会」と決まりました。

堀田は、7月の第1回スイスイの会の開催が決まると、自身が訪問を担当している失語症のご利用者I様（40代）に交流の場として参加を提案しました。最初は拒否的だったI様ですが、開催日が近づくにつれ参加意欲が出てきてI様自ら「参加したい!」と発言し、参加することになりました。堀田は、I様が参加するにあたり、自己紹介をするための原稿を作成したり、自己紹介を題材にリハビリを行い参加のサポート行いました。

I様は、第1回「スイスイの会」で自己紹介を行いました。原稿の棒読みではなく、自分の言葉で自己紹介を行いました。そして、8月末の第2回にも参加、今度は原稿もサポートなしで自己紹介を行いました。I様は仲間との交流に、「楽しかった!」「今後は自分ひとりでいきたい!」と、意欲的に笑顔で話され、リハビリに積極的に取り組んでいます。

堀田は、今後も「社会への失語症の理解を深めること目指して『スイスイの会』のサポートを行っていきます。」意欲的に活動を継続しております。